

不二健育会 特別養護老人ホーム ケアポート板橋

草野多恵(職種/介護支援専門員 所属部署 /包括)

功 績 包括は、高島平7丁目～9丁目、新河岸、舟渡が担当地域である。その中でも舟渡地区は、高齢者向けの公共施設が少なく、介護予防事業の開催も比較的少ない。高齢者や障害者など集える場として、ケアポート板橋(特養)の敷地内にある手入れが行き届いていない植え込みを農園として使用できないかと草野は考え、土壌整備をはじめ、半年後、小規模ではあるが農園が形になる。その活動が地域にも徐々に認められるようになり、令和3年4月27日農福連携ミニシンポジウム(いたばし総合ボランティアセンター主催)で活動報告に選ばれると共に、持続可能な「集いの場」を作り上げた功績。

推 薦 者 鈴木穰(舟渡地域包括支援センター/所長)

推 薦 理 由 地域包括支援センターは、介護保険サービスに係る業務が中心とはなるが、介護予防、ネットワーク構築などを期待されています。住民同士の互助、共助を育む活動の一環として、持続可能な住民の集いの場として農園といった社会資源を今回、開発することができました。この活動を広く住民に広報する機会が与えられ、協力者の方々のモチベーションの向上に繋がったことは、理事長賞に相応しい功績であると評価し、推薦させていただきます。

内 容

地域包括支援センターは、「地域包括ケアシステムの構築」の要として期待されています。特に、介護予防の充実、助け合い・支え合いの地域づくりについては、コロナ禍で希薄になった住民同士の繋がり強化が、重要な課題となります。

包括の草野保健師は、高齢者や障害者等が気軽に集える場所を開発できないかをずっと考えておりました。老人医療センター認知症研究チームとの初期集中支援での関わりの中で、板橋総合ボランティアセンター敷地内での「農福連携」情報を貰い、ケアポート板橋においてもこの様な取り組みを実施できないかと、早速行動に移しました。

ケアポート板橋の敷地内にある、1.6m×10mの植え込み場所をまずは整備。農園に詳しい舟渡通所ドライバーへ協力を依頼し、土壌を考え試験的にキュウリやトマトの育成を舟渡デイご利用者と共に行う等、段階的に「畑」として継続運用できるかを試していきました。また、関心を持って下さった高島平の認知症カフェ「ゆずり葉」のメンバー様より、活動場所としてこの畑に全面協力したいとオファーを頂き、雑草取りや区画整理を経費も含め、主導で協力して下さいました。

この取り組みは、板橋社会福祉協議会の「スポット事業」の一環として、補助金を頂きながら事業展開できることとなり、さらには令和3年4月27日農福連携ミニシンポジウム(いたばし総合ボランティアセンター主催)において、活動報告させて頂くことができました。5月30日には地域住民・保育園・小学校と連携し、「苗植え会」を開催予定しており、今後、元気高齢者、認知症高齢者、子ども、障害者などさまざまな住民の集いの場となれるよう、活動をバックアップして行きたいと考えております。